

令和4年12月6日

東伊豆町議会
議長 稲葉 義仁 様

総務経済常任委員会
委員長 須佐 衛

議員派遣結果の報告

令和4年第3回定例会で承認された議員派遣の結果を報告いたします。

記

- 1 目的 総務経済常任委員会による先進地視察研修のため
(1) 早川地域づくり事業協同組合について
(2) 南箕輪村の移住政策について
(3) 塩尻市「のるーと」試乗
- 2 派遣場所 (1) 山梨県早川町
(2) 長野県南箕輪村
(3) 長野県塩尻市
- 3 期間 令和元年10月6日(火)～8日(木)の3日間
- 4 派遣議員 総務経済常任委員会委員

5 派遣内容

- (1) 早川地域づくり事業協同組合について

ア 早川町の概要

早川町は、山梨県の南西部に位置し、面積は約370km²(山梨県第2位)、人口は933人となり日本で一番人口が少ない。森林が占める割合は実に町の96%を占め、残りの4%に36集落が点在している。昭和31年に旧6ヵ村が合併して誕生し、現在に至っている。

中部横断自動車道が令和3年8月に全線で開通し、人流の大きな変化に期待が寄せられている。

イ 組合の概要

令和2年6月に施行された「特定地域づくり事業の推進に関する法律」に基づき、地域の担い手を確保し、若者の移住を促進し地域を活性化させる目的から、令和3年4月より観光協会内に設立準備委員会を設置し取り組んできた。

(a) 早川地域づくり事業協同組合の概要

組合員数	4事業者
派遣職員	2名
事務局	1名

(b) 事業の内容

- ・地域人口の急減に対処するための労働者派遣事業
- ・組合員の取り扱う農林水産物、畜産加工品、食料品等の共同販売、及び市場開拓・共同宣伝
- ・組合員の事業に関する人材育成、教育情報提供事業
- ・事業分野は旅館・ホテル業、森林組合、農業団体等

(c) 奥山式マルチワーカー万能丸（まんのうがん）について

早川町では「万能丸でなければ生きていられない」という教えがあり、農業はもちろん、林業、狩猟、炭焼き、養蚕に至るまで、多くの生業をこなさないと生活できないとされてきた。この地域への「山村留学」で移住を考えたときに、働き先を確保することが至上命題とされる。組合の派遣職員が「万能丸」になるための教育も必要になってくる。

ウ 感想

令和3年の4月から特定地域づくり事業協同組合の準備担当者確保し（県を退職し観光協会に雇用された職員）、手続等を踏んで1年で事業開始にこぎつけた。まだ始まったばかりなので顕著な実績はないが、2名を雇用し将来的に5事業所に5名を派遣したいという目標を置いている。東伊豆町においても農業や観光業、医療・介護事業に至るまで必要などきに欲しいという人手不足感があり、町としてこの事業を検討する価値はあるのではないかと考える。



県産材を利用して造られた庁舎、木の香が心地よい。こちらの講堂が議場にもなる。町長の挨拶のあと事業内容の説明がなされた。

(2) 南箕輪村の移住政策について

ア 南箕輪村の概要

南箕輪村は長野県の中部に位置し、中央アルプスの南斜面に中央自動車道を挟んだ市街地が広がる。総面積は約41km²あるが、そのうち約半分が居住者がいない山岳地域になる。車で新宿まで2時間半、名古屋まで2時間の好立地で、広い農地と最近では工場を誘致して人口を増やしている。

(a) 人口の推移

明治8年の南箕輪村誕生以来人口が増え続け、平成の大合併の際も自立した村づくりを選択、このとき人口は1万4千人、平成25年には1万5千人、今年10月には1万6千人に達した。そのうち移住者の割合は73.3%にのぼる。また、高齢化率は23.7%で、長野県下で一番低い。

(b) 各年代の推移

保育園児は平成20年に5百人を超えると、平成30年には7百人に達し増え続けていて、ここ15年で1.42倍増加している。また、小中学校の生徒数も千五百人を超えて増え続けている。この半世紀の就業人口の推移を見ると、1次産業が大きく減り、その分2次産業、3次産業が増えている。

イ 定住につながる子育て支援施策

(a) 主な支援施策

平成17年度から保育料率を漸減させ、特に平成27年には8.4%減らし、利用しやすい仕組みを作った。福祉医療費給付の充実を図り、平成25年度には高校3年生まで拡充。令和4年度は窓口での支払いをなくし(現物給付)、完全無料化を実現させている。その他、各種利用料を減らし、施設を拡充させるなどの支援策が採られている。

(b) 南箕輪村版ネウボラ

ネウボラとはフィンランドの子育て支援制度で、妊娠から出産、子育てに関するあらゆる相談ごとにワンストップで対応する制度で、南箕輪村で採り入れ平成29年に本格始動した。妊娠期から子どもが18歳になるまで途切れない支援を行っている。

ウ 移住施策の実践

(a) 「ちょこっと農業塾」の取り組み

地方創生の取り組みとして、都市部の農業に関心のある層に向けた出前の農業塾を実施し、二拠点居住や移住につなげている。定員を大きく上回る募集があり、現地のツアーには移住を本格的に考えている人に対象を絞ったところ、6人が本格的に検討を始めた(現在はコロナのため事業が停止中)。これには、新規就農者を支えるサポート体制として、JAとの強固なタッグと、青年農業者団体の存在が大きい。

(b) 女性の就業お仕事相談

移住者の就業相談として、女性に特化した再就職のサポートを実施している。具体的には、就業の際の悩みごとの相談や応募書類の書き方、仕事の斡旋、セミナーの実施等で、専門のスタッフを2人配置し事業に当たらせている。平成28年に事業を開始し、これまで村内の製造業等に270人以上の再就職を実現させた。

エ 感想

現村長は地域おこし協力隊から村議会議員になり、その後村長になった方で、もとはといえば、奥さんの里帰り出産をきっかけに、子育てしやすい南箕輪村を知ったことによる。その根底には行政の管理職13名のうち8名が女性という、まさに女性の視点から村づくりが進められていることがあげられる。

「有効な移住策は」と尋ねると、「移住に特化した事業は施していない。村民すべてが子育てしやすい、住みやすい村をつくるのが大切」と担当課長から回答が返ってきた。これには、移住策より定住策に重点を置くことの大切さを知らされた。村全体として閉鎖的な感情がなく、移住者が7

0%を超えることから、むしろ、移住という観念がないのかもしれない。



ビジュアルなホームページを立ち上げるなど、若者や女性目線を意識した子育て支援策を実践している。



議長、副村長との記念撮影

(3) 塩尻市「のるーと」試乗

ア 概要

「のるーと」は、塩尻 MaaS プロジェクトが導入した AI 活用のオンデマンドバスで、利用客のリクエストに応じて適宜ルートを設定しながら運行する

乗り合い型の交通サービスである。塩尻市では、令和4年度から「のるーと塩尻」の本格運行を開始し、利用者数が極めて少ない地域振興バスから転換を図っている。この10月から本格運行を実施し、市街地を中心に6地域運行している。この本格運行を前に、プロジェクトでは住民向け説明会を地域ごとに実施した。

イ 利用方法

(a) 予約

のるーと塩尻は、アプリで配車を予約することが必要で、スマホにアプリをダウンロードするところから始まる。そして、乗車する停留所と降車する停留所を確認し、時間を予約する。予約は3日前からできる。混み合う時間やバスの進行方向などに注意が必要であり、電話でも予約ができるが推奨されていない。

(b) 乗る

私たちは宿泊先のホテルに設置された停留所からバスに乗り込んだ。予約時間の5分前にバスは到着し、一人200円を支払って乗車した。その際に予約番号を伝える仕組みになっている。AI活用のオンデマンドバスでは、人工知能が予約状況に応じて配車や運行ルートを考え走行する。そのため、効率的かつ利便性の高い交通サービスをワンストップで利用可能とする。



ウ 感想

AIを活用したオンデマンドバスは、各地で事例が見られるようになった。のるーとは、地方の公共交通の在り方を問うもので、中山間地に集落やリゾートマンション、別荘が点在する東伊豆町にとっても学ぶべき点が多と感じた。



民間企業が出資するネクスト・モビリティ社と塩尻市が共同で始めた「のるーと」

